

長ノ木本坊ご正当報恩講「聞くならく厳冬の夜」(3)

2024.1.16 朝席

はじめて仏のちかひをききはじむるひとびとの、わが身のわろく、こころのわろきをおもひしりて、この身のやうにてはなんぞ往生せんずるといふひとにこそ、煩惱具足したる身なれば、わがこころの善悪をば沙汰せず、迎へたまふぞとは申し候へ。

はじめて阿弥陀仏の本願を聞いて、自らの悪い行いや悪い心を思い知り、このようなわたしではとても往生することなどできないであろうという人にこそ、煩惱をそなえた身であるから、阿弥陀仏はわたしたちの心の善し悪しを問うことなく、間違いなく浄土に迎えてくださるのだと説かれるのです。

かくききてのち、仏を信ぜんとおもふこころふかくなりぬるには、まことにこの身をもいとひ、流転せんことをもかなしみて、ふかくちかひをも信じ、阿弥陀仏をも好みまうしななどするひとは、もとこそ、こころのままにてあしきことをもおもひ、あしきことをもふるまひななどせしかども、いまはさやうのこころをすてんとおぼしめしあはせたまはばこそ、世をいとふしるしにて候はめ。

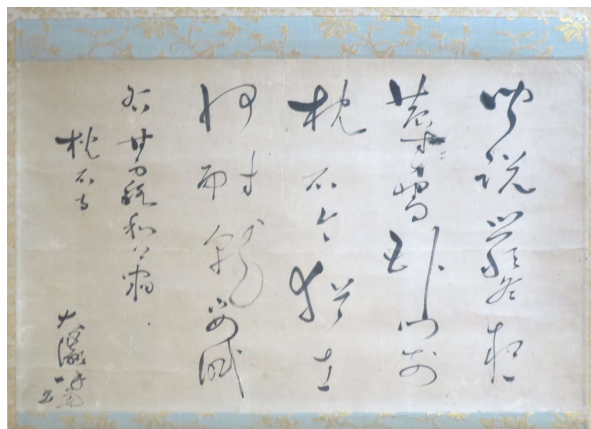
このように聞いて阿弥陀仏を信じようと思う心が深くなると、心からこの身を厭い、迷いの世界を生れ変り死に変わりし続けることをも悲しんで、深く阿弥陀仏の本願を信じ、その名号を進んで称えるようになるのです。以前は心にまかせて悪い心を起し悪い行いをしていたけれども、今はそのような心を捨てようとお思いになることこそ、この迷いの世界を厭うすがたであろうと思います。

また往生の信心は、釈迦・弥陀の御すすめによりておこるとこそみえて候へば、さりともまことのこころおこらせたまひなんには、いかがむかしの御こころのままにては候ふべき。

また、浄土往生を疑うことのない信心は、釈尊と阿弥陀仏のお勧めによっておこると示されているので、煩惱をそなえた身であっても、真実の信心をいただいたからには、どうしてかつての心のままでいられるでしょうか。 (『末燈鈔』20通『註釈版』739)

罪を罪とも思わず生活
教えを聞き、罪を罪と気づく…自己嫌悪・自己否定
如来の救いは悪人がめあて…こころの善悪をば沙汰せず迎へたまうと聞く
仏を信ずる心が深くなると、世をいとふしるしがある

■聞くならく厳冬の夜



聞くならく厳冬の夜、

聞くとおころによくと 厳冬の夜

雪を褥(ソレ)にして門前に臥す。

雪を褥(=敷物)にして親鸞聖人は門前で横になられた枕石今猶ほ在り。

その時、聖人が枕にされた石が今なお残っている

何んぞ安眠に就くに耐へん。

どうして私だけ平気で安らかに床に就くことができようか、できはしない

慧雲詩→大瀛書(西教寺蔵)

芸轍→安芸門徒の伝統

…おたんや(ご正当)を姿勢を正して迎へする

…煮ごめ

封内親鸞宗に係わるもの多し。その深く信ずる者は、家に神棚を置かず、病んで祈祷せず、毎年祖師の忌、十一月廿二日より廿八日まで素食し、漁獵をせず (『芸藩通史』1825年)

…神祇不拝・精進・不殺生

死に対する向き合い方

■神道的な向き合い方

□喪に服す

①服喪=服忌 (神社本庁・『日本民俗大辞典』)

②服・喪≠忌 (服忌令)

忌…父母50日 …忌中

服…父母13ヶ月…喪中

平安時代→15世紀鎌倉時代制定→江戸時代(綱吉・吉宗etc.)制定

→1874(M7)年明治政府制定→1900(M29)民法公布=形骸化

□根底にケガレ意識

死穢(黒不浄)・血穢(赤不浄)・産穢(白不浄)

□触穢(ケガレがうつる)の思想も

死穢50日→その家族と話をする(接触する)=25日のケガレ

→またその人と接触する=7日のケガレ

(『葬儀が仏事となるために』小武正教)

□ケガレたらどうするか=忌む・はらう・きよめる

清める（ケガレをおとす）…清め塩
はらう（ケガレを排除する）…おはらい
忌む（ケガレを遮断する）…物忌み

…もしかしたら

…コロナ（目に見えない）に対する対処方法のように、病気を治し、他者にうつさないための古代の対処方法

□物忌みの内容

『日本民族大辞典』

弔問・病氣見舞い・肉食・音楽・刑罰・触穢の禁止

忌み籠もり（外出せず別火＝煮炊きを別にする・沐浴・徹夜で神に仕える）

…全部悪いとはいえない

…グリーンケアの観点からは、何もせずに寝る・絶対臥褥期は大切

喪中・忌中の過ごし方・違いははっきり理解できていない（平安祭典HPより）

慶事（結婚式・結納）を行わない

神社にお参りしない

正月を祝わない

×鏡餅、門松、しめ縄などの正月飾り、お節料理・お屠蘇など⇒○普段通り

「おめでとうございます」という新年の挨拶、神社への初詣は控え、年賀状ではなく事前に喪中はがき（年賀欠礼状）を出す。

□ケガレ意識が元になっている差別

死に関わる職業差別…葬式・屠殺 etc.

女性差別…女性は土俵に上がってはいけない2018年大相撲舞鶴場所

舞鶴市長クモ膜下出血・「女性は土俵から降りてください」

人命<ケガレ意識

■専修念仏（法然教団）・浄土真宗の向き合い方

法然聖人 仏教にはいみといふ事なし

（『百四十五箇条（いっぴやくしじゅうごかじょう）問答』『法然上人聖人全集』654）

蓮如上人（8代）

わが流には仏法についてもいまはぬといへることなり。（略）

（蓮如上人『御文章』1帖9通『註釈版』1096）

親鸞聖人 直接の言及はみあたらない…神祇不拜の教え

みづから仏に帰命し、法に帰命し、比丘僧に帰命せよ。余道に事ふることを得ざれ、天を拜することを得ざれ、鬼神を祠ることを得ざれ、吉良日を視ることを得ざれ

（『教行証文類』『般舟三昧経』を引用『註釈版』429）

念仏者は無礙の一道なり。そのいはれいかんとならば、信心の行者には、天神・地祇も敬伏し、魔界・外道も障礙することなし。（『歎異抄』『註釈版』836）

かなしきかなや道俗の 良時・吉日えらばしめ

天神・地祇をあがめつつ ト占祭祀つとめとす（『正像末法和讃』『註釈版』618）

覚如上人（3代）

『御伝鈔』平太郎の熊野詣で（下巻五段） 「さらに不浄をも^{かひつくる}刷ふことなし」

『親鸞聖人御因縁並真仏源海事』（『真宗資料集成』7）

…『御伝鈔』より古い伝承（宮崎圓遵・平松令三）

…平太郎は別火精進をしなかった

…田辺で土佐の船が難破、死骸が打ち上げられたが、死のケガレを忌んで誰も近づ

かなかつたが平太郎が夜にまぎれて取り除けた ケガレ意識<人間の尊厳

□教団内差別と課題

性差別…女は内陣に上がってはいけないでしょ（門徒Aさん）

部落差別…差別法名 etc.

忌中（→還浄・帰浄）・年回忌→○○回会・御正忌→御正当・清め塩廃止・年賀欠礼

□道の宗教・力の宗教（信楽峻麿）

力の宗教…パワー（力）を信じる・当てにする

道の宗教…どう生きるか（道理の宗教・本多静芳…何が本当か・何が大切か）

□何がめでたいのか

①一般的な（日本的・神道的）人生観

長生きがめでたい

みんないっしょに年をとることができたから（数え年）

めでたいとめでたくないの境目

家族が死んだらめでたくない（年賀欠礼）

=家族でなければめでたい=お祝い

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）で近づく遠くの世界

…地震で大変な人の目の前でお祝いの様子を投稿する
≡遺族に「おめでとうございます」という
→お寺では「あけまして南無阿弥陀仏」という（←稲城選恵）

②浄土真宗・仏教のめざす人生

A 家族だけではない

親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏申したること、いまだ候はず。そのゆゑは、一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり。いづれもいづれも、この順次生に仏に成りてたすけ候ふべきなり。（『歎異抄』『註釈版』834）

一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ、安樂であれ。いかなる生物生類であっても、怯（おび）えているものでも強剛なものでも、悉（ことごと）く、長いものでも、大きなものでも、中くらいのものでも、短いものでも、微細なものでも、粗大なものでも、目に見えるものでも、見えないものでも、遠くに住むものでも、近くに住むものでも、すでに生まれたものでも、これから生まれようと欲するものでも、一切の生きとし生けるものは、幸せであれ。

（釈尊の言葉『スッタニパータ（経集）』145-147）

…すべてのものの幸せを願って生きることのできる人

…毎年「おめでとう」とはいえない
⇒我さえ・わが家族・自国さえ良ければという心
＝「今だけ金だけ自分だけ」（鈴木宣弘）

実に朋友を得るのは善いことである。自分より優れ、或いは自分と同等な朋友に親しむべきである。（31）

もしも自分より優れた人が自分と同等の人に出遭わないなら、きっぱりと独で行くべきだ。愚か者を道連れにすべきでは無い。（61）

愚か者は、自分の子ども、自分の財産、自分の地位、自分の家族のことだけを考えて思い悩む。（62）

もし愚者がみずから愚かであると自覚する者は賢者で、自分は賢者であるとうぬぼれる者は愚か者である。（63）

（釈尊の言葉『スッタニパータ』釈妙慧さんの正月に来たはがき）

…天皇が死んだら全員服喪…歌舞音楽停止・ネオンサイン消灯
…貴あれば賤あり

…皆のようにできない私（東日本大地震）

…「思い続けること」は大切なことだと思います（松岡宗淳）

…理想のようにいかない人生…それでも「しるし」があるはずだ（親鸞聖人）

B 生命の量と質

量…長生き…長生きしたいが思い通りにならない

質…死んでも「めでたい」といえる人生

…長生きできたら質はどうでもいい

…長生きしたいが思うようにはならない

…と腹に据えて、いずれ終わっていくいのちをどう生きるのか、

…死を納得して迎えられる、死を超えゆく心の姿勢（往生）を学ぶ

葬式に赤飯を炊く…北陸関西等、ご法義所・三重県いなべ市…赤飯とと唐辛子汁

明法御房（山伏弁円）の往生のこと、おどろきまうすべきにはあらねども、かへすがへすうれしく候ふ。鹿島・行方・奥郡、かやうの往生ねがはせたまふひとびとの、みなのおよるこびにて候ふ。またひらつかの入道殿（相模大磯の了源？）の御往生のこときき候ふこそ、かへすがへす申すにかぎりなくおぼえ候へ。めでたさ申しつくすべくも候はず。
（『末燈鈔』20通『註釈版』737）

親鸞さまにとって「めでたい」こと

…迷いの人生に終止符を打つこと

…本願に値遇する（出遇う）こと

…三世をつらぬいて願われている私のいのちの意味

□年賀はがき・年賀欠礼

年賀状…何をしているのか…悲しい人はおいといて自分たちだけ祝う

→新年が迎えられたらめでたいか

…めでたくもありめであたくもなし（一休宗純）

…本当にめでたいことは別にある

…新年を祝う→新年のごあいさつ

年賀欠礼…神道的死生観に起源…服忌・服喪…ケガレ意識

→服喪していない（形骸化した習慣）≠喪中はがき
 …人のつながりをかろうじて維持⇨死の私事化=家族葬（⇨死を共有する）
 …通知・お知らせをする
 仏教的にめでたい（大切なこと）を伝える

南伝仏暦 2564（2021）年 睦月

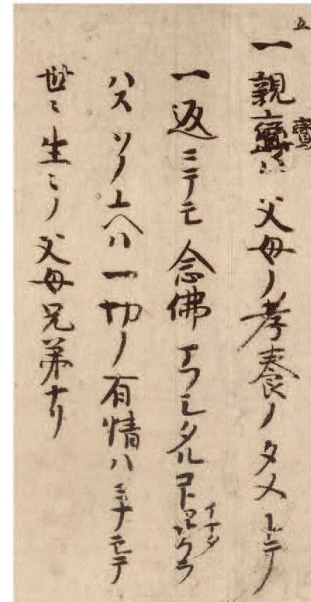


私親鸞は、父母を追善供養するために、お念仏を申したことは、
 いまだ一度もありません。その訳は、一切の命あるものはみな、
 生まれ変わり死にかわりする間にどこかでは父母であり兄弟に
 なっているのです。

昨年十月末、母（前坊守・岩崎ヤヲ）が往生の素懐を遂げま
 した。長年にわたる皆さまの御厚情に心より感謝申し上げます。

お正月はなぜめでたいのか、調べてみると、昔は教え年で、お正月
 を迎えると皆いつしよに年をとることができたからだそうです。しかし
 近親者が亡くなると、喪に服し、お祝い事を慎み身を清める服忌・物
 忌をする、その一環として年賀を欠礼するのだそうです。この日本の慣
 習（神道）では、亡くなったのが近親者でなければお正月を祝いますが、
 仏教は「全ての命あるものはみな親兄弟だ」と教えます。そうなる
 毎日が家族の誰かのお葬式、お祝いなんて一生できない
 ことになります。

では、親鸞さまがどういうところまで「めでたい」と
 おっしゃっているのか、お手紙を読んでもみると、死なな
 ず年をとることがめでたい
 のではなくて、お弟子が信
 心決定し往生したこと、信
 心（仏のいのち）をいた
 だいたことを「めでたい」
 と喜んでおられます。



親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏まふしたること、
 いまださふらはず。そのゆへは、一切の有情はみなもて世々生々
 の父母兄弟なり。〔歎異抄〕

母と別れ、見るもの全て
 が涙の元ですが、仏さまに
 お育ていただいた一生を送
 らせてもらったことに感謝
 の気持ちでいっぱいです。

〒737-0051
 広島県呉市中央 7-7-13
 西教寺蔵本通支坊 www.saikyoji.net
 岩崎智寧 chinei@saikyoji.net
 岩崎誓子 seiko@saikyoji.net
 慧（仏教の勉強中）/ 学（大3）/ 遊（大2）
 TEL0823-21-2798/FAX0823-21-2795

お精進のすゝめ

封内親鸞宗に係わるもの多し。その深く信ずる者、
 家に神棚を置かず、病んで祈祷せず、毎年祖師の忌、
 十一月廿二日より廿八日まで素食し、漁猟をせず。

〔芸藩通史〕1818-1830



浄土真宗本願寺派
 安芸南組連研部会

伝えたい郷土の精進料理



に 煮ごめ

材料

玉ねぎ シイタケ 大根 サトイモ 油揚げ
 レンコン こんにゃく ゴボウ 小豆

下ごしらえ

- ・材料の分量は各自自由。
- ・小豆以外は全部さいの目に切りますが、サトイモは煮くずれするので、少し大きめに切る方がよいでしょう。
- ・小豆は先に七分くらいゆで、こんにゃくは塩で板ずりをしてさいの目に切り、さっとゆでます。

作り方

- ①大きい鍋に玉ねぎを少量の油でとろ火でよく炒める。
- ②小豆以外の全部の材料を炒める。
- ③昆布だしをひたひたより少し多めに入れる。
- ④小豆を入れる。
- ⑤砂糖少々（入れなくても良い）、淡口醤油を入れ、淡味に煮る。最後に濃口醤油を入れ、出来上がり。